



# 三匹のこぶた と 鑑定人




内山鑑定 採用案内

『三匹のこぶた』には、つづきがありました。

 長男 「オオカミがいなくなったから、  
僕はもう一度、自分の家をつくってみようと考えてるんだ」  
あるとき、長男こぶたが言いました。

 次男 「それはいいね。僕もやっぱりマイホームがほしい」  
次男こぶたが答えました。

 三男 「僕も、オオカミに壊された煙突を直したい！」  
三男こぶたも元気よく言いました。

すぐさま、長男はワラを、次男は木を、  
三男はレンガを集めに出かけました。





「できたー！」

いちばん先に家を完成させたのは、  
やっぱり長男こぶたでした。



「やっぱりワラの家がいちばんだな」

長男こぶたは、大満足です。



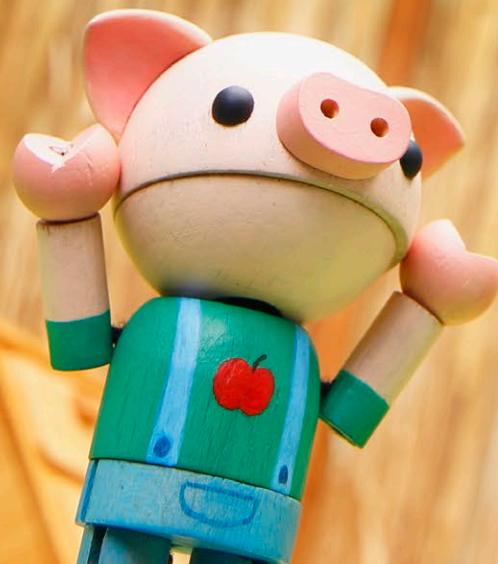
ビューーーーー！！

それは、突然のことでした。  
ワラの家を竜巻が襲ってきたのです。



「うわー！ 誰かー！」


大声で叫ぶ長男こぶたを無視して、  
竜巻は屋根を奪い去ってしまいました。





「せっかくできたところだったのに…」


あたりが静かになった頃、  
長男こぶたは、がっくりと肩を落とし、  
ワラの家を見つめていました。


しばらくすると、どこからともなく、  
長男こぶたのもとに、スーツを着た紳士がやってきました。


 内山  
「鑑定人の内山です。損害保険会社からのご依頼でお伺いしました。  
この度は、大変なことでした」

 長男  
「鑑定人…？」  
長男こぶたは首をかしげました。



 内山  
「はい。竜巻によるご被害を確認し、  
保険会社に報告いたします。  
保険会社では、内容を精査して  
保険金の支払い手続きを進めます」  
鑑定人は、折り目正しく伝えました。


 長男  
「そうなんだ。損害保険に入ってたよ良かったあ」  
長男こぶたは、胸をなでおろしました。

 長男  
「屋根が飛んでいってしまったんですよ。  
扉も外れているけど、ほかは大丈夫じゃないかなあ…」  
長男こぶたは鑑定人に告げました。

 内山  
「はい。ただ、念のため、  
家全体を確認させてください」  
鑑定人は、冷静に答えました。

鑑定人は、写真も撮りながら、  
家全体を見てまわりました。

 内山  
「ご被害は、屋根だけではありません」  
ひと通り見終わった鑑定人が、長男こぶたに知らせました。  
 内山  
「柱にも、一部、ご被害が見受けられます」

 長男  
「えっ！そんなのまったく気付かなかった。プロはちがうなあ」  
長男こぶたは、ため息まじりに驚きの声をあげました。



「ふうー」

季節が変わり始める頃、  
次男こぶたは、ようやく木の家を完成させました。



「木は、ぬくもりがあっていいな」  
次男こぶたは、ご満悦の様子です。



その夜、次男こぶたは、  
自分へのご褒美に、天ぷらをつくっていました。  
ところがです。

次男こぶたが目を離した隙に、  
天ぷら油が燃え出してしまったのです。



「大変だ! 火事だ!!」

燃えさかる炎を発見した次男こぶたは、  
急いで火を消しました。



どうにか、火は消えたものの、  
あたりはすすで真っ黒になってしまいました。



「どうしよう…」

次男こぶたは、落胆するばかりでした。

次の日の朝。

どこからともなく…


そうです、鑑定人の内山さんがやって来たのです。


内山さんは長男こぶたのときと同じように、きちんと挨拶をし、訪問の理由を伝えました。

 「どうぞ、お入りください」

次男こぶたは、内山さんに被害を見てもらおうことにしました。





 「燃えたところにだけ、保険金がおりののですよね」  
次男こぶたは鑑定人に話しました。

 「すすけたところも、対象となるかもしれませんので、確認してみましょう」  
鑑定人は、落ち着いた口調で答えました。

鑑定人は、目を凝らしながら、しかし手際よく、見てまわりました。



 「よく見ますと、換気口から外壁にかけても、ご被害がありました」  
鑑定人の発言に、次男こぶたは思わず口をあけてしまいました。

 「すごい…よく見つけてくれたなあ」  
次男こぶたは、鑑定人の緻密さに驚きを隠せませんでした。



それから、しばらくのことです。

三男こぶたは、  
煙突の修理を終えようとしていました。



「今度煙突に入ってくるのは、サンタさんかな」

三男こぶたは、ひとり冗談を言って、  
くすりと笑いました。



ドーン！

それは、あまりにも大きな音でした。

レンガの家に、  
大きな衝撃が下から突き上げてきたのです。



「地震だ!!」

三男こぶたは、テーブルの下でぶるぶる震えながら、  
地震がおさまるのを待ちました。




「たのむから、壊れないでくれ…」


三男こぶたは、修理し終えたばかりの煙突が  
とても心配でした。




翌日のことです。  
鑑定人の内山さんが、  
レンガの家を訪ねてきました。




 「鑑定…？」  
三男こぶたは、はじめはきょとんとしていましたが、  
内山さんの説明を聞いて、訪問の理由を理解しました。

 「家の中の本棚とかは、倒れてしまったけれど、  
レンガの家は大丈夫だったのかなあ」  
三男こぶたは不安げに言いました。

 「わかりました。まずは、確認してみましょう」

鑑定人は、家の中も外も、  
ひとつひとつ、しっかりと見ていきました。



 「外壁に、ひび割れがありました」  
ひと通り見終わった鑑定人が、三男こぶたに告げました。

 「おお…」  
三男こぶたは、鑑定人の冷静な観察力に、感心しました。



三匹のこぶたには、  
損害保険会社から保険金が支払われ、  
それぞれの家は無事に元の姿を取り戻しました。  
こぶたたちの顔には、笑みが戻っていました。



おだやかな、ある日のこと。  
長男こぶたと次男こぶたは、三男こぶたに呼ばれ、  
レンガの家が集まっていた。



「きょうは発表があるんだ」  
三男こぶたが、切り出しました。



「僕も人の役に立ちたい。鑑定人をめざそうと思う」  
突然の告白に、ふたりの兄は驚いて声も出ません。  
するとそこへ、ピンポンと音がしました。



「みなさん、こんにちは。鑑定人の内山です」  
なんと、内山さんが訪れたのです。



「きょうは、三男こぶたさんのご依頼で伺いました。  
もしよろしければ、鑑定人という仕事について、  
お兄様がたもお話を聞いてください」  
内山さんは、丁寧に説明を始めました。





私たちの仕事には、大きくわけて  
「損害鑑定」と「評価鑑定」があります。

私たちの仕事は、大きく分けて2種類。

ひとつは今回、3匹のこぶたさんの家で実施したように、被害を受けた保険対象の損害額の鑑定です。もうひとつは、保険を契約する前に実施される、契約対象の保険価額の調査です。

損害鑑定だけじゃないんだね!

### 損害鑑定

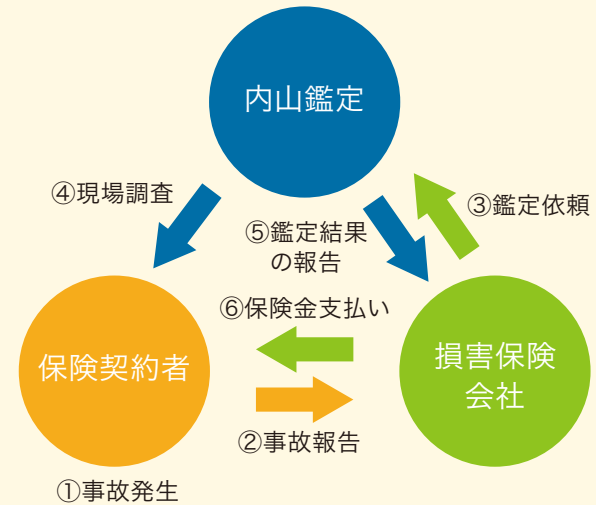
被害を受けた保険対象の損害額を鑑定します。



### 評価鑑定

保険契約の前に、契約対象の保険価額を調査します。

### 損害鑑定の流れ



鑑定人は、損害保険会社の依頼により、事故現場へ向かいます。目視、写真撮影、計測、そして、関係者から状況をヒアリングし、被害を中立な立場で公正に判断。損害額を算出します。損害の鑑定だけでなく、被害に遭われた方の心情に配慮することも大切です。

### 保険事故の種類



保険事故の種類は、自然災害から人的要因によるものまで、実にさまざまです。また、訪問先も、個人のお宅から、工場、特殊な施設・設備など、多岐にわたります。



自然災害だけかと思ってた!



## 鑑定人として活躍している、先輩たちの声を紹介します。

内山鑑定に入社した先輩たちは、仕事を経験するにつれ、充実感や達成感を感じています。先輩社員たちの声の数々をご紹介します。

### 充実感が、達成感がある。

- 鑑定書が完成したときの充実感は、なかなかのもの。
- 大規模災害での鑑定は、大変だけれど、達成感がある。
- 「次回もお願いします」という、保険会社の方の言葉がうれしかった。
- 保険契約者の方に感謝され、とてもうれしかった。
- 様々な「もの」を見て経験を積み重ねる中、自分の成長が実感できる。

### 私が思う〈内山鑑定の魅力〉

- 1年目からしっかり活躍できる環境がある。
- 成長を支える研修制度。
- 入社前から感じていた、気さくな社風、先輩の人柄の良さ。先輩、後輩隔てなく、興味深い話が聞ける。

誠実な僕にも向いているかもしれない！



### 私が思う〈鑑定人のやりがい・魅力〉

- 経験とともに知識も身につく、鑑定人としての価値も高められる。
- 人との接し方を考えたり、自分を磨ける仕事だと感じた。
- 正直でいられる仕事。そして、正直でいることが大切な仕事。
- 事故現場の調査、という特殊性。
- 様々な場所へ行くことができる。仕事はきびしいけれど、その土地のことを知る楽しみもある。

充実感や達成感の大きさは、やりがいにつながるね



長く続けられそうな仕事だよ



### 資格取得が、鑑定人への第一歩。

鑑定人としてのキャリアは、鑑定人の資格を取得することから始まります。

資格は、一般社団法人日本損害保険協会が実施する認定試験に合格することで得られます。認定試験は技能ランクで分けられており、3級から1級まで3種類あります。





いつも成長を！最後に、  
研修・教育制度についてご案内します。

資格取得に向けた知識の習得、現場経験の積み重ねなど、内山鑑定は充実の研修・教育制度で、社員ひとりひとりの成長を支えています。

### 入社前研修

**資格取得勉強会** 入社直前の1月に実施される3級資格試験対策として、先輩社員が勉強会を開催。

**鑑定人準備セミナー** 入社前の不安の解消、社会人としての心構えの習得、モチベーションの向上をめざします。

### 入社後の新入社員研修

鑑定人育成チームキット(KIT)とOJTによる研修

**4月～6月中旬** 基礎研修と現場同行研修(先輩社員に同行)を通して、鑑定人としての基本業務の習得。

**6月下旬～7月末** 逆同行研修(先輩社員に同行してもらう)と、事案の再確認で知識を深めるスタートアップ研修により、独り立ちの準備。

**10月** 中間フォローアップ研修で、独り立ち後の不安・疑問の解消など、半年間の振り返り。

**3月** 期末フォローアップ研修で、知識を深める建築施設見学や事案検討会を通して一年間の振り返り。

**2・3年目 それ以降も、各種研修で成長をバックアップ！**

研修が充実  
しているのは、  
心強いね



以上で説明を  
終わります。

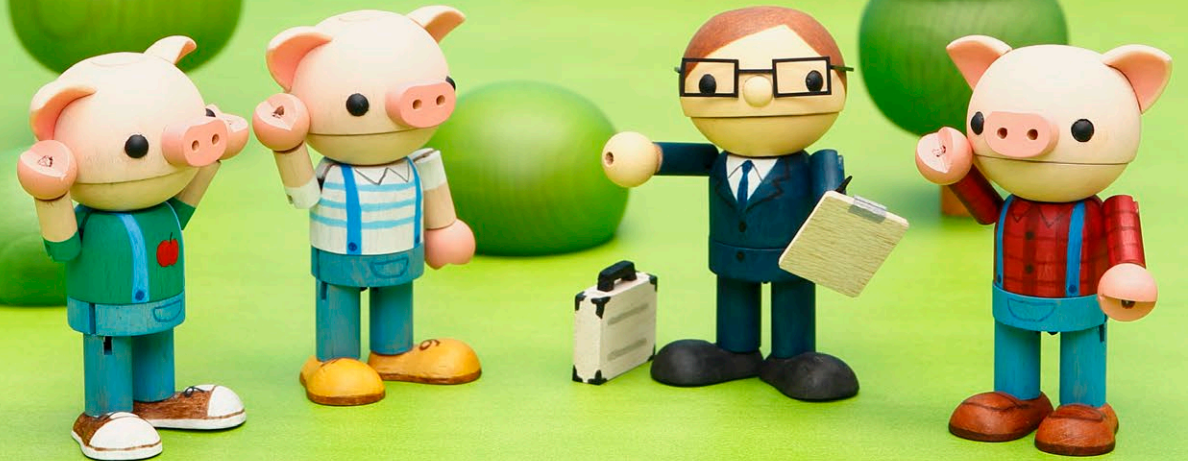


内山さんが説明を終えて、玄関を出たときです。

**次男** 「待ってください」  
次男こぶたが内山さんの背中に声をかけました。

**次男** 「僕も鑑定人をめざしたいと思います」  
目を輝かせて言いました。

**長男** 「内山さん、僕もお願いします」  
立て続けに、長男こぶたが言いました。



**内山** 「はい。もちろんです」  
内山さんは、微笑みながらうなずきました。

**三男** 「じゃあ、誰が最初に資格を取れるか競争だ！」  
三男こぶたの明るい声が、青空いっぱいに響きました。

Fin.



株式会社 内山鑑定事務所

〒107-0052 東京都港区赤坂2-2-17 ニッセイ溜池山王ビル2F

☎ 0120-965-462

美術協力:おもちゃのこま一む

2021.04